



株式会社 熊本野菜育苗センター





トマト9cmポット接木苗

良質で元気な苗を、九州のまん中から。

現在、九州における果菜類の苗は1億~1億3千万本が作付されています。その中で購入苗が占める割合は約半数にあたる5千~6千万本と言われており、今後も需要は拡大すると予測されています。こうした市場背景を受けて当農場は「有限公司竹内園芸・熊本農場」として平成26年に九州で開業しました。平成29年には「株式会社熊本野菜育苗センター」として分社化。現在、九州~西日本エリアを中心に生産農家、販売店向けの苗を生産・出荷しています。

接ぎ木の技術も含め、安定した品質の苗を作るのは容易ではありません。苗という個体差のある生き物を環境差や気象の

変化があるなかで確実に育てていくには全ての育苗工程において細心の注意を払う必要があります。当農場では半世紀近くに渡って蓄積してきた育苗技術だけでなく、先進的な機械設備を積極的に開発・導入することで作業効率化と省力化を図り、良質で元気な苗を安定的に生産し、お客様にお届けするよう勤めています。

苗七分作とか苗半作という言葉があるほど、苗の良し悪しは定植後の作柄に影響を与えます。精神的にも肉体的にも労力のかかる「育苗」を私たちにお任せいただくことで「うまくできるだろうか…」といった不安から解放され

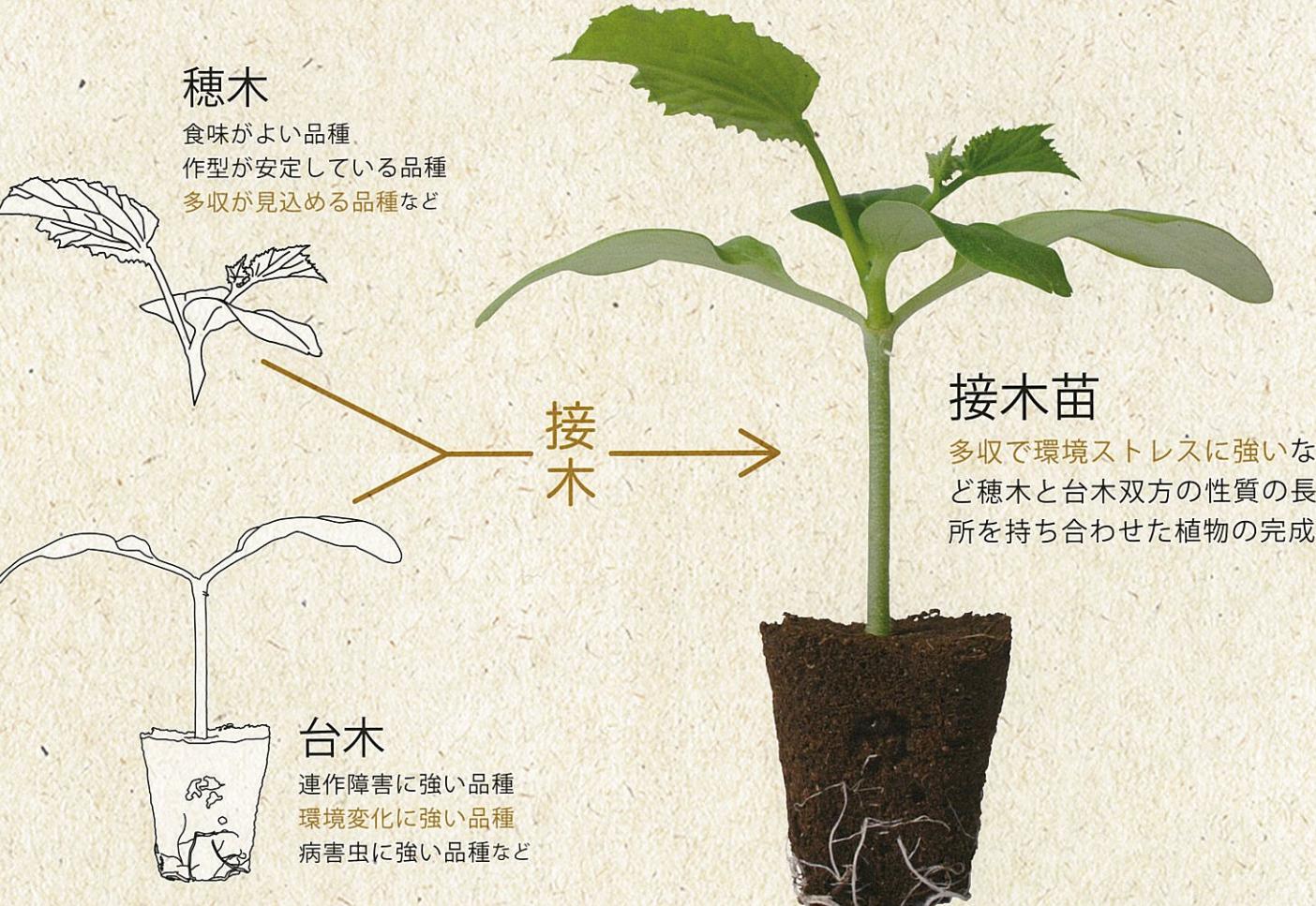
るだけでなく、収穫期をずらすことでも圃場を有効活用したり、ハウスの整備や定植準備に充てることができます。そして私たちの主力商品である「接木苗」は、2種類の植物の長所を兼ね備えた苗です。美味しい実がたくさんなる品種と病気に強い品種を合わせれば、病気に負けず栽培管理が容易で美味しいトマトが収穫できます。

私たちは創業以来「私たちの苗がお客様の利益に繋がること」を常に考え、取り組んできました。これからも「日本の農業、農家のために」九州のまん中からより良い商品を生産者の方にご提供して参ります。

接木苗について OUR PRODUCTS

当社ではグループ会社も含めるとおよそ60品目2,000品種以上の苗を生産していますが、その中でも特に注力しているのが「接木苗」です。「接木」とは特徴の

異なるふたつの植物を接ぎ合わせ、両者の長所を兼ね揃えた植物を作り出す園芸技術で、接ぎあわせる穂木と台木の組み合わせによって様々な特性を苗に付加することができます。例えば「実が沢山なる品種」に「気温などの外環境変化に耐性のある品種」を接



キュウリ72穴プラグ接木苗

商品の特徴 CHARACTERISTICS

当社では大きく2つの形態で苗をお届けしています。育苗トレーに定植した状態でお届けするプラグ苗はポット苗に比べコストを抑えることができ、荷姿・納期もコンパクトです。ポット苗は植付け適期まで苗を育ててお届けします。鉢上げや二次育苗の手間が省け、苗が届いたら後すぐに植え付けることができます。

プラグ苗の特徴

苗が根鉢を形成して土を抱え込んでいるので移植が容易です。移植時の傷みも少ないので初期育成がスムーズに行えます。生育・品質の整った苗を選別してお届けします。



ナス128穴プラグ接木苗

ポット苗の特徴

熟練スタッフによる手灌水と適度な株間調整により引き締まった苗に仕上げてお届けします。二次育苗の手間がかかりません。お手元もとに届いて直ぐに定植できます。



メロン9cmポット接木苗

設備と周辺環境

LOCATION & FACILITY

当社農場は大津町の南方、白川の辺りに近い農地の一角にあります。町域の平均気温は 15°C~17°C。施設内は夏季は日中 40°C 前後~夜温 22°C と寒暖差があり湿度も低いため苗が徒長しにくい環境です。(冬季は温湯ボイラーにより 13°C の最低温度を維持します)

JR大津駅、幹線道路、高速道路のイン

ターチェンジ、空港など交通の要所が比較的近傍に揃っており、交通至便性にも恵まれています。

育苗設備は 1.2ha・13連棟の育苗ハウスが敷地の南北に中央通路を介して連結されています。このハウスは用土供給や播種設備、接木室・養生室・種子庫などの建屋も内包しており、培土供給から二次育苗に至る全工程が育苗ハウスの内部で完結します。

同じく、施設の西端に出荷ヤードが連結

されており、ハウスから直接苗を搬送して積込むことができます。

平成30年には第3農場を増設。同年夏季より育苗を開始しています。こちらは天井・サイド巻き揚げ式の29連棟ハウスで農場面積 1ha。約 30 万本の栽培が可能で、主に春季後半~初秋の農繁期に稼働しています。



育苗ハウス（南北）

面積：1.2ha×2棟（南：44床 / 北：48床）

育苗本数：各棟約1,000,000本

初期育苗及び二次育苗で使用します。

第3農場

面積：1ha（58床）

育苗本数：約300,000本

主に二次育苗で使用します。



受注・生産管理

受注・生産管理はグループ共有のオンラインネットワーク上で管理。納品日から育苗開始日を算出し、各部署に伝達・指示します。

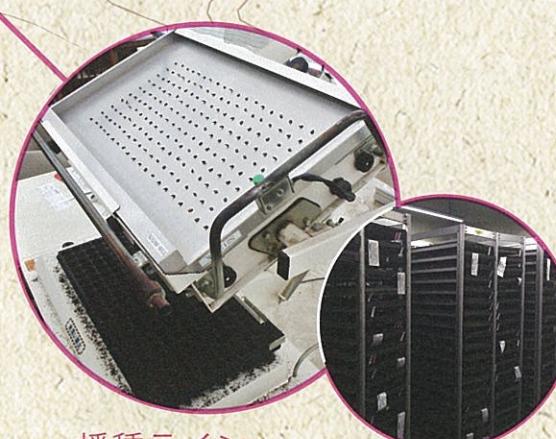


出荷ヤード

遮光性フィルムを展張しています。2ヶ所の搬入口を備えており、大型トラックの乗入れも可能です。

用土供給ライン

セルトレー：毎時350枚
9cm育苗ポット：毎時8,000本
ポット用ラインはパレタイザーを装備しています。



播種ライン

接播種専用の機械を使用します。
播種が済んだトレーは覆土・灌水され「発芽室」で管理した後、ハウスに移動して初期育苗を行います。

接木室・養生室・発芽室

最盛期の接木数：50,000本 / 日
接木後の苗は「養生室」に移動して台木と穂木の活着をうながします。

